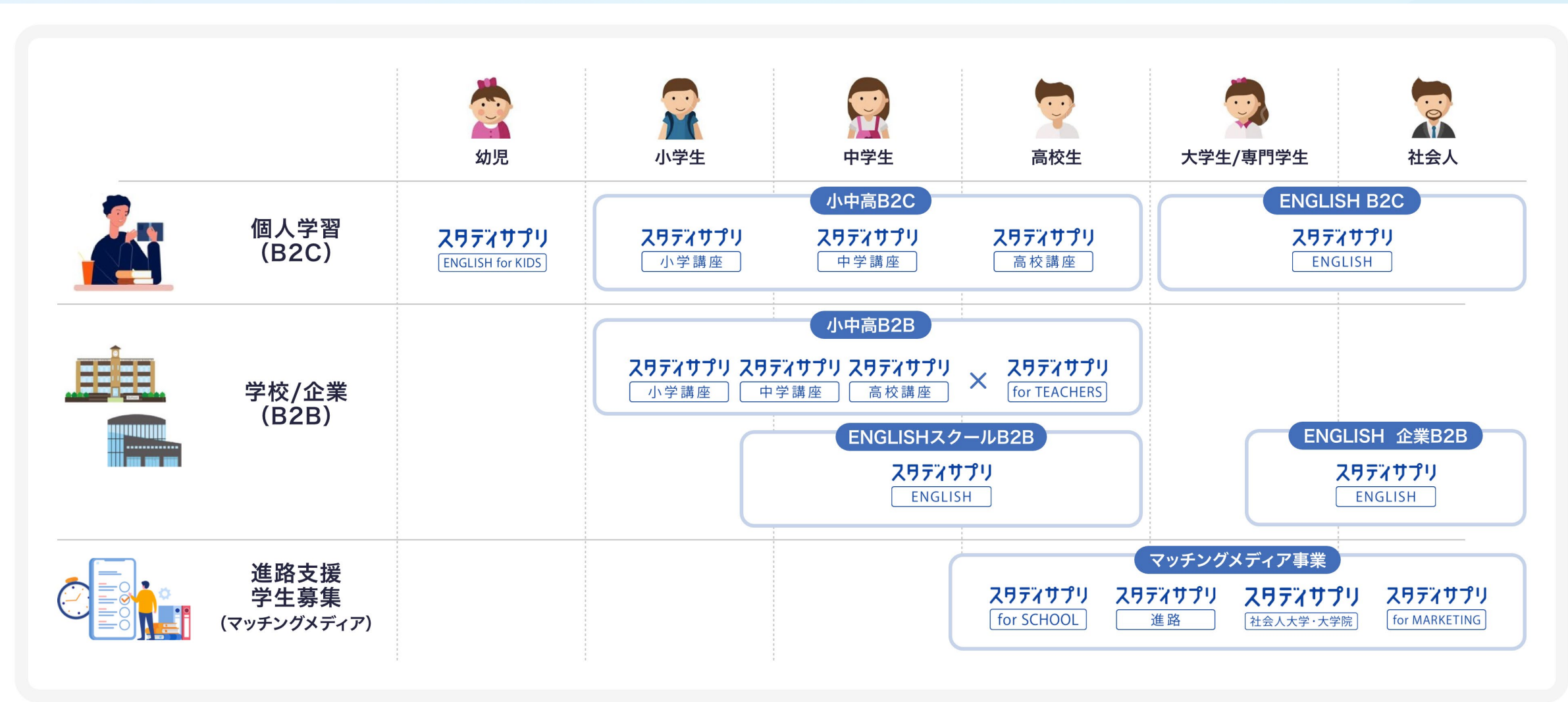


# デジタル行財政改革 課題発掘対話（第1回）

株式会社リクルート スタディサプリ教育AI研究所  
小宮山 利恵子

# スタディサプリのプロダクトラインナップ

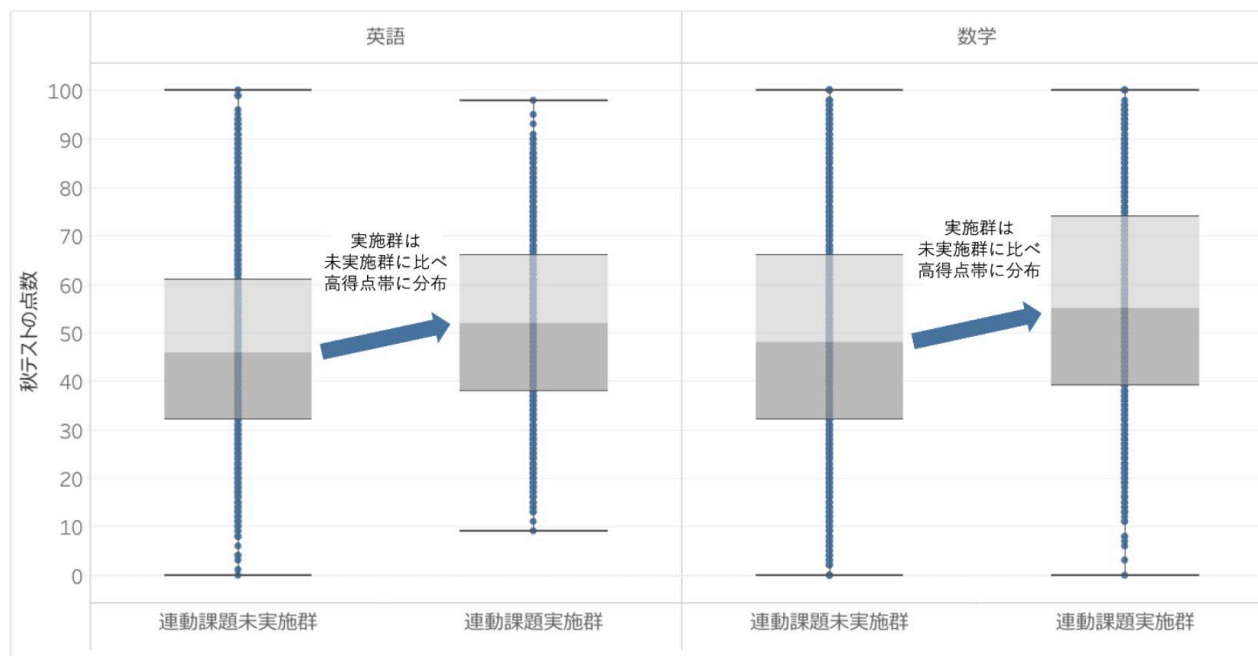


# 【高校】学力向上分析事例

- スタディサプリ導入校におけるのべ1万人超の高校生の学習効果を検証
- 単元別のつまずきの把握に特化した「到達度テスト」を行い、生徒一人ひとりのテスト結果に応じた学び直しの連動課題配信を実施することで学力向上を示唆

調査概要	
調査期間	2021年4月～11月
調査対象校	スタディサプリを利用しており、「到達度テスト」を春と秋の2回受験している高校183校
調査対象数	春テストの得点が20～79点の高校2年生のうち、秋テストを受験したのべ1万1,167人
調査方法	対象のスタディサプリ受講者の学習データの結果を集計・分析

連動課題の有無と秋テストの得点分布（英語、数学）



※プレスリリースURL：[https://www.recruit.co.jp/newsroom/pressrelease/2022/0824\\_11542.html](https://www.recruit.co.jp/newsroom/pressrelease/2022/0824_11542.html)

# 【公教育】不登校学習支援事例：名古屋市

- 適応指導教室（3館）で、スタッフ寄り添いのもと、さかのぼり学習に取り組む
- 満足度が100%、自己肯定感の高まりにつながる行動のあらわれが約8割（約8割の児童生徒が「勉強が楽しくなった」「自分にあった勉強のやり方を見つけた」「勉強に自信がついた」と回答）

実施概要	
開催期間	2017年8月～
実施場所	適応指導教室「なごやフレンドリーナウ」全3教室の自習ルームにて
使用教材 (教科)	スタディサプリ小学・中学講座
参加児童生徒	小学1年生～中学3年生 105名
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人にあった学習機会の提供（安心できる環境、自信がつくさかのぼり学習）</li> <li>・結果として、登校・勉強していないことの「負い目」緩和と、自己肯定感の高まりを</li> </ul>
支援員	スタッフ9名（各教室に3名ずつ）
インフラ状況	セルラー版iPadを利用



満足度

	スタディサプリ全体	授業動画	ドリル	サブモン
とても満足	74.5%	69.1%	56.4%	45.5%
やや満足	25.5%	25.5%	23.6%	9.1%
やや不満	0.0%	0.0%	3.6%	1.8%
とても不満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
使ったことがない	0.0%	5.5%	16.4%	43.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

自己肯定感

	スタディサプリに取り組む前とくらべて				
	勉強が 楽しくなった	自分にあった 勉強のやり方 を見つけた	勉強に 自信がついた	勉強する時間が 増えた	得意・得意な 分野に気がついた
とてもあてはまる	29.1%	25.5%	16.4%	32.7%	32.7%
あてはまる	58.2%	49.1%	60.0%	40.0%	43.6%
あてはまらない	9.1%	21.8%	16.4%	20.0%	20.0%
全くあてはまらない	3.6%	3.6%	7.3%	7.3%	3.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



# 【高校】 教員の業務改善事例：北海道紋別高等学校



- 教育格差という地域課題の解消に向け、スタディサプリを活用
- 生徒の学力向上と教員の業務負担軽減の両方を実現

## 導入背景・課題

- 学校の周辺に塾や予備校がなく、学校内で幅広い学力層の生徒に対応する必要あり
- 生徒たちの資質・能力を育てるために、基礎学力の下支えが必要（進学目的以前に、早い段階での苦手分野の発見と克服が求められる）

## 活用ポイント

- 下位層の学び直しのために「到達度テスト」を活用
- 「連動課題配信」で個別最適化した課題に取り組ませる。金曜日に「課題配信」、月曜日に「単元テスト」など学校での取り組みに加えて、長期休暇でも活用
- 現3学年は、1、2学年の頃から「ポートフォリオ」機能（アンケート、活動メモ）も活用し、主体評価が重視される受験への対策も実施

## 活用効果

### <生徒> 課題の提出率が高まり、成績下位層が減少

- 数学を中心に成績向上し、**学力のボリュームゾーンが中間レベルに集まり始めている**
- 課題の提出率が高くなり、期日内に提出する生徒が増加
- 課題と自学自習の内容を使い分けて、自分に合った学習方法を主体的に選べる生徒も出てきた

### <教員> 働き方改革への貢献

- 従来まで時間を取られていた作問や採点、提出状況のチェックなどの業務を短縮
- 空いた時間を進路指導に割いたり、教材研究など自身のスキルアップに使ったりと、**本来やるべきことや、やりたかったことへ時間を活用できるように**



※活用事例URL：<https://teachers.studysapuri.jp/case/102>

# 【公教育】 教員の業務改善事例：徳島県美馬市立穴吹中学校

- 教育格差という地域課題の解消に向け、スタディサプリを活用
- 導入して数ヶ月で、教員の業務負担軽減と生徒の学びに向かう姿勢の変化を実感



## 導入背景・課題

- ・指定のEdTech活用推進事業を引き受けたものの、限られた期間でどのような教材を選び、どのように活用を進めていくべきか不安
- ・ICTに長けた教員はおらず、不慣れな教員もいる中で、誰か1人に活用を頼り切ることでの活用が停滞してしまう懸念

## 活用ポイント

- ・教員一人一人がまず使ってみることを心掛け、分からない部分は授業研究会や定例進捗会議、職員室内の会話で情報共有を行い、全体のレベルアップを図る
- ・教科ごとに「宿題配信機能」「確認テスト」「アンケート機能」「メッセージ機能」を効果的に用いて、前回授業の復習や授業内での問題演習、グループワークの活性化に活用

## 活用効果

### <生徒> 学びに向かう姿勢の変化

- ・紙媒体では途中で諦めてしまう生徒も、**スタディサプリでは根気強く取り組むことができている**
- ・学ぶ姿勢を育むことはもちろん、Society5.0時代を生きる生徒たちに、ICTに触れる機会を提供できた

### <教員> 授業の効率化と業務負担の軽減

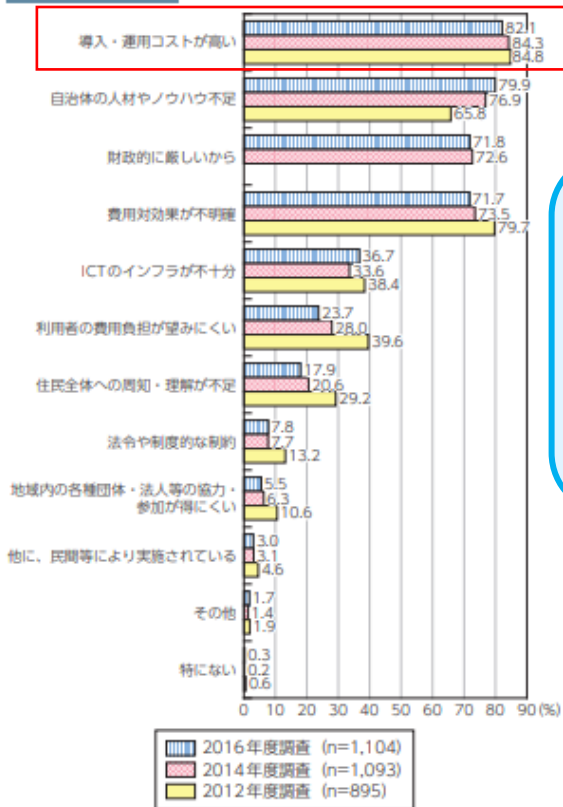
- ・英語：授業開始前に前回の復習課題を『スタディサプリ』で解く流れを定着→生徒が自然と授業前に着席して学習するように。生徒の学びに向かう姿勢の改善と、**教員の声かけ負担軽減へ**
- ・国語：「アンケート機能」や「メッセージ機能」を用いて授業内で扱う作品や指示を授業前・授業中に配信。**付箋などで行っていた意見投票がスピーディーになり、業務負担の削減とスムーズな授業進行へ**

※活用事例URL：<https://teachers.studysapuri.jp/case/99>

# 今後のICTツール活用促進に向けて

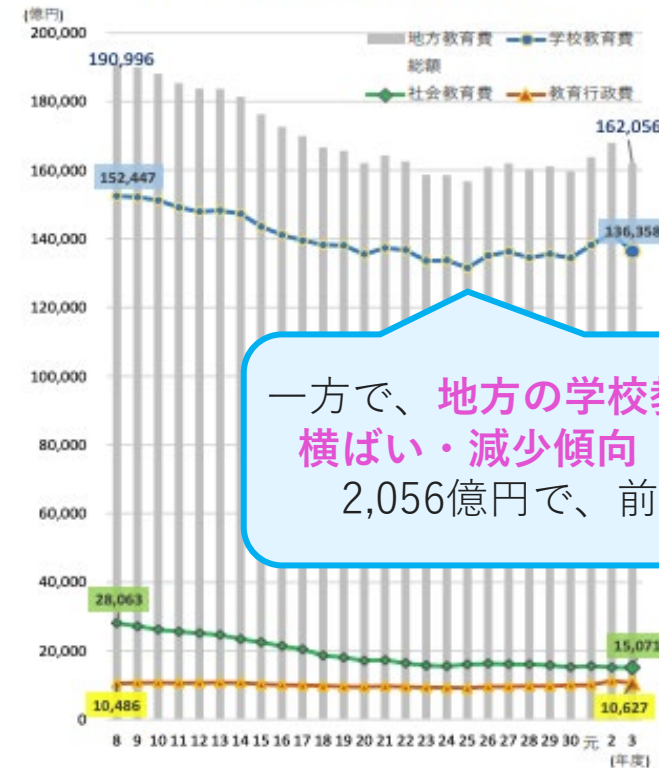
ICTツール普及において、導入予算が限られており、費用面がボトルネックになっている  
今後のICT教育の普及に向け、ハード・ソフト両面での導入支援をご検討いただきたい

図表 6-3-1-4 ICT利活用事業を推進する上での課題



地域でのICT利活用を進める上での主要課題として、**82.1%**が「**導入・運用コストが高い**」と回答

図1 教育分野別地方教育費の推移



一方で、**地方の学校教育費は25年前から横ばい・減少傾向**（令和3年度は16兆2,056億円で、前年度比3.5%減）

※1：総務省「地域におけるICT利活用の進展状況」より抜粋 (<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h29/pdf/n6300000.pdf>)

※2：文部科学省「R4地方教育費調査（R3会計年度）の中間報告について」より抜粋 ([https://www.mext.go.jp/content/20230622-mxt\\_chousa01-000030606\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230622-mxt_chousa01-000030606_2.pdf))